

私立保育園の現状

The Situation in a Private Nursery

安田 好美 YASUDA, Yoshimi

● 安田ベビーホーム Yasuda Baby Home

安田ベビーホームの安田でございます。本日は「21 世紀への教育」という、現代社会において非常に重要なテーマのシンポジウムでお話をさせていただくことになりました。30 年間取り組んでまいりました私の保育を、具体的な事例に即して、お話させていただきたいと思います。

1. 安田ベビーホームという環境

保育園に通う子供達は、1 日の大半を家庭外で過ごすわけです。ですから安田ベビーホームでは、毎日大切な命を温かい愛情で育てることを第一に考え、わが家にいるような気持ちで安心して子供達が育つように配慮しております。建物も普通の家庭のように、できるだけ今はやりの建材を使わないで、とても丁寧に作っているつもりです。物理的には家庭外であっても、心理的には「昼間の家庭」であり、子供達が本当に安心して過ごすことができます。私どもは園長先生とか保母さんではなく「昼間のお母さん」なのだと考えています。先生達みんなが昼間のお母さん。保母である前に素敵な女性でありましょう。かけ言葉はそうようにしております。

さて、乳幼児期、0 歳から 5 歳までの子供を私達は年齢分けをしないで混合保育を行っています。その中で何ができるか。安全と安心を前提として、年齢の異なる子供達が 1 日過ごすことにどんな意味があるのかを次に考えてみたいと思います。

2. 大切にしたい 4 つの基本

私は乳幼児期にきちんと身につけてあげることが、4 つあると思っています。食べること、排泄すること、眠ること、そして遊ぶことです。この 4 つについては家庭においても保育園においても、非常に大事なことだと考えています。この 4 つをきちんと自分のものにすることが、その後の成長・知育・徳育・体育すべての基本となります。この基本なくして、すこやかな成長はありえないと考えています。

その上で大切なことに子供どうしの「遊び」があります。乳幼児にとっての「遊び」は、「よりよく」生きるために最も大切なことです。子供達は、遊びを通してコミュニケーションの力を磨き、社会性を身につけます。人と人との間で、文字通りの人間としてよりよく生きていくためには、乳幼児期から集団の中で遊ぶ経験を持つことが不可欠です。遊びの中で社会性を身につける、今日はこれを主題にお話したいと思います。

3. 社会性を身につけるということ

「学級崩壊」や「17 歳の犯罪」「引きこもり」など、最近のニュースでは青少年の生活の荒廃や社会的不適応行動が多々取り上げられ、大きな問題となっています。私はそういうお子さんの事件を聞く度に、あのお子さんは小さい時どうしていたのだろうと、胸がとっても痛みます。社会のルールを守れない、他人を傷つけることを何とも感じ

ない、他人とコミュニケーションをとることができない。こうした社会生活に適應できない子供達は どうしてできるのでしょうか。いろいろな要因が考えられますが、乳幼児期の生育環境が大きな位置を占めていると私達は考えています。

社会性は、口で教えて身につくものではありません。社会の中で、集団の中で実体験として、時には傷けたり、時には傷つけられたりしながら習得していくものだと思います。安田ベビーホームのような保育園、つまり年齢の異なる子供達が朝から晩まで一緒に暮らし、一緒に遊ぶ集団は、小さいながらも立派に一つの社会です。その中で、子供達がどのように社会性を習得していくのか。子供の養育環境はどうあるべきなのか。それに対して保育園はどんなことができるのか、どんな役割を担うべきなのか。安田ベビーホームの事例を通して考えていきたいと思います。

4. 安田ベビーホームで暮らすということ

・朝夕のお集まりの中で

安田ベビーホームの子供達の生活を、写真をご覧いただきまして、具体的にご説明していきたいと思います。これは朝のお集まりの風景です。子供は1日中遊ぶ中で、1日に2回くらいは背筋をピンと伸ばして緊張感がある時を持つのがいいのではないかと思います。朝のお集まり、夕方のお集まりをしています。0歳の子供を含め、全員がホールに輪になって集まりまして、約20分間行います。まずひとりひとりの名前を呼びます。「〇〇ちゃん」「ハイ」呼ばれた子供は立ち上がって手を挙げてお返事をします。その度にみんなは拍手で応えます。大勢の前で、子供は自分自身の存在を認めていくのです。自己肯定、それはとっても大事なことだと思います。よくできた、みんながほめてくれる、みんなが認めてくれる。自分の存在をとっても大切に思います。

つづいて季節の歌を歌ったり、お遊戯をしたりして過ごします。「先生！ボクできる」とみんなの前で堂々と自分を披露します。自信をつけます。子供達は朝から晩までワイワイ遊んでいるだけで

はないのです。しっかりと自分というものを認識していております。そこでみんなが認めてくれる大勢の中の自分をしっかりとみつめることが、ひいては他者も自分と同様に尊い存在だと思えるようになるのです。

最後に、私どもはその日の連絡事項を職員に話します。「〇〇ちゃんは昨日あんまり眠れていないのでお散歩は今日はやめにしておきましょう」「薬を持ってきました、食前にのませてください」その間子供達は大人の話聞いているのです。みんなきちんと聞いています。先生の真剣な態度が子供達にも伝わるからです。子供のそばにいる大人は、いいかげんではいけないということです。今はきちんとする時だ、それを教えていかなくてもいけないのです。自分が何をすればよいのか、何をしてはいけないのか、立ったり座ったりおしゃべりしてはいけない、社会規範を学び自己抑制をしていくことを生活の場で覚えるのです。これが生活だと思っています。

・お迎えの時に

これは夕方のお迎えの風景です。「ただいま」とお迎えにくるお母さん、お父さんを、子供と保母が「お帰りなさい」と出迎えます。私は1日の様子を報告いたしますが、この時ふっと口に出てしまいます。「今日もとっても良い子でしたよ」。お母さんの前で毎日話します。生まれた時に親はその存在をすごく喜んだ、それをお父さん、お母さんはいつも胸に抱いてらっしゃる。それと同じように、私もまたここに子供がいることを、本当にうれしいと思う。なんて素晴らしい、私がそう思っていることをお母さん、お父さん、おじいちゃん、おばあちゃんに、子供の前でいつもしゃべっている。「わー。先生にいい子だと思ってもらってうれしいな」子供は自分の存在に自信を持てきます。自信を持つということは自分が好きになるということです。お母さん、お父さんも自分を好きだと思ってくれている。ほくも自分が好きだ。自分を愛することができる子供が、はじめて他者を愛し、尊重し、いたわることができるのです。このようにしてやさしい心、ほんものの人間としての心が、培われていくのではないのでしょうか。

私はいくら子供がその存在が素敵だ、輝いていると言っても、悪いことをした時はよくない、とはっきりお母さんに伝えます。誰々ちゃんと今日は大げんかした、顔をひっかいた、これはよくない、絶対いけない。何がいけないかも、きちんと子供に伝えます。いけないこととよいことをきちんと区分けします。子供は根っこが先生とお母さんの間でつながっていることを知っていますから、悪口を言われたとか、言いつけられたとかいうことは、これっぽちも思いません。私は一生懸命に、お母さんと同じ立場で子供を育てています。私は卒園式の挨拶でこんなことを言います。今日まで、半分は私の子供だと思って育ててきました。明日からはお返しします。産休あけのスープひとさじから、子供の胃腸を、内臓を育ててきたんです。子供の内臓を知り尽くしています。子供ひとりひとりの便の臭いまで知っています。このようにして、私たちは4歳5歳まで育ててきたのです。これが安田ベビーホームの子育てなんです。

・自由遊びの中で

さて写真を見ていただきましょう。自由遊びの風景です。一番向こうに座っている白い服の子供が5歳です。手前に立っている、顔が写っていない子が4歳です。そうして、しまの服を着ている子供と白い服を着てかがんでいる子が3歳です。一番前の子が1歳です。さて一番最初に遊んでいたのがこの5歳の子供と4歳の子供です。いろは積み木を並べて素晴らしい構成遊びをしていました。そこへ3歳の子供が「仲間に入っている？」「うん、いいよ」。するともう1人が「じゃ僕も」「うん」4人で遊んでおりました。そこへ1歳の子供が、面白そうだな・・・、やってきた訳です。遊んでいるように見えますが、この子は壊しているのです。「キャー壊さないで！せっかく作ったのに」パニックになる前に5歳の子供が1歳の子供の所にやってきて、この子供をかかえて少し離れたところへ連れていきました。そうすると4歳の子供が「これ貸してあげるから、ここで遊んでね」「うんいいよ」1歳の子がいなくなってまた平和な楽しい遊びが始まりました。けれどもしばらくして、1人じゃつまんない、と思ったのかまたやって来た所を私がパチッと写真

を写した所です。この3歳の、真ん中のしましま服の子供もつい2~3ヶ月前まではなかなかみんなと遊べなかった。ところが今日は、この写真の時は「うんいいよ」仲間に入れてもらいました。子供どうしはお互いの心の状態、機嫌が全部わかっているのです。そうしてこの1歳の子供を誰もいじめない、怒らない。なぜなら、まだわかんないの、そしてまだ作れないの。非常に1人1人の心の奥の奥まで、子供達は知っております。兄弟のように育っているからです。その後どうなったかといいますと、この4歳が持っているものを「貸してあげるからね、ここで遊んでね、遠くに行かなくてもいいから」しめしめ、1歳の子供はまるで仲間に入ったような気がしてめでたしめでたし。ところが、こう上手くいく時ばかりじゃないんです。グチャグチャになることが沢山ある。じゃあ先生が介入するのか？とんでもない。いいんです、グチャグチャになる苦い経験をすることによって、遊びの世界をうまく作れるようになるのです。それも勉強なのです。

さてこうして子供達は自由遊びの中で同調と抑制、自己主張を身につけております。複雑な子供どうしの人間関係の中でコミュニケーションを成立させる難しさを毎日毎日体験しております。ベビーホームの中で、壊されたり、達成感を味わったりしながら、タフで適応力の強い心を子供達は身につけていくのです。なんて素敵なんだろう。私はその中で30年間過ごしているのです。とても素晴らしい子供の世界です。

・お散歩や公園の中で

さてお外に出てみましょう。次の写真は井の頭公園。公園駅の向こうに三角広場がございます。その神田川の中に、ある日子供達がじゃぶじゃぶ入った。「まあ冷たいからダメよ」「大丈夫だよ」「じゃあ私も」ちようどわんぱく天国が始まった時の写真です。私は子供の教育、情操教育の為には自然が大事だと思います。自然は子供にいろんなものを教えてくれます。その為に安田ベビーホームはわざわざ井の頭公園に越して参りました。自然の中で仲間がいれば子供には遊具はいらないのです。棒切れ1本、石ころひとつから、無限の遊びを考え出します。また井の頭公園にはホームレ

スの人もあります。犬の散歩をしている方もいます。老人がひなたぼっこしていらっやいます。子供達は毎日毎日手をつないで遊びに行って、さあ、遊んでいいよ、と言いますとパーッとクモの子を散らしたように遊びに行きます。でも1度も事故を起こしていません。それは何故。1人1人が細やかなルールをきちんと守っているからです。遊んでよい範囲、許されない危険な遊びがどんなものか、公園に来ている他の人々との距離の取り方、動植物への接し方、色々細かいルールをきちんと毎日毎日、公園の遊びの中でそれぞれが獲得しているのです。大きい子が小さい子をかわいがること、いたわること、生き物を大切にすること、人にご迷惑をかけないこと、こうして社会生活の基本的なルール、マナー、規範を生活習慣として身につけていきます。

次の写真は公園の行き帰りの風景ですが、大きい子が小さい子と手をつなぐ。そうして車道を大きい子が歩き、小さい子を歩道の方に歩かせる。日常生活の中でいたわりの心が自然に身につくのです。

5. 子供、親、そしてソーシャルファミリーへ

さて集団の中でどのように子供達が社会性を身につけていくかを事例に即してお話してきましたが、では、親と保育園はどのような関わりをしているのか。安田ベビーホームでは園児とその家族と、それから卒園生、小学生を含めた約150名以上が毎年1回、5月に一泊旅行をしています。昼間はテーマを決めて製作したり、ポニーに乗って遊んだり、夜はキャンプファイヤーを囲んでフォークダンスしたり歌ったり、東京ではできない花火をしたり、それぞれが懐中電灯を持って清里の暗い夜の冒険旅行と称して出かけたりします。夕食の後、子供が眠った後、親達は夜のふけるのも忘れて語り合います。時にはカラオケもします。アルコールを飲みながら思いのたけを語るのです。子供を産んだら自動的に母親になる、父親になるのではないのです。子供のことで悩んだり苦しんだり、考え抜いて、そしてだんだんに父親になり母親になって成長していくのだと思います。話が

はずんでくると、お姑さんのこと、同期の友人がどんどん力を伸ばしていくこと、自分の健康のこと、仕事に明け暮れて帰りの遅い夫のこと、皆話すことが山ほどあります。大人はどう生きるべきか、父親とは何ぞや、その他諸々のことを、職場や人生観の異なる大人達が親という共通の基盤の上で一緒に話すのです。

ベビーホームのご父兄ではなくて一般の方から育児相談の電話がまいります。電話を通して気が付くことは、親は孤立している。社会性が身につけていない。昔であれば地域社会が担っていた機能が今はどこにもない。コミュニケーションの場がない。非常に孤立しています。保育園に来ている親はこういう風に安田ベビーホームで色々と話ができます。けれども、1対1で子供を育てていらっしゃる専業主婦のお母さんは、子供をちゃんと育てるべきだという圧力があって、母親が母親が・・・と一人で子育ての重圧を背負いこんでいる。私は、非常に苦しいだろうと思います。誰かが手を差し伸べなければと時々思う事があります。安田ベビーホームはソーシャルファミリーなのです。一種の共同生活体です。『社会化された家族』だと言ってよいと思います。

21世紀における乳幼児の養育環境を考える時に、保育園がソーシャルファミリーとしての機能を持つことで保育園には大きな可能性が秘められていると思います。また多くの親に期待されているのではないのでしょうか。できうれば、安田ベビーホームのような年齢の枠をこえた、保育園と名がついていいかどうか解りませんが、昼間働いているから、共稼ぎだからということではなく、一般の子供みんなが小さい時から、集団の中で生活をし、遊び、お母さん達もお母さん達の交流をしっかりとやって、お互いにチェックしながら本当の親になっていく、子供達も集団の中で子供になっていく。全ての保育園がそういう機能を担うことができれば私は夢見ております。

時間がまいりましたので非常にお粗末ではございましたが、急いでお話をさせていただきました。今日のご静聴ありがとうございました。